

日本鉄鋼協会記事

評 議 員 会

第2回評議員会 開催日：2月18日。出席者：芝崎副会長，他 27 名。

出席者は委任状提出者を合わせ 203 名の過半数で委員会は成立。

1. 次期理事，監事ならびに評議員候補者推薦の件
理事15名，監事1名，評議員122名の各候補者を通常総会における選挙の際の候補者として推薦することを決定。

2. 定款中一部変更の件
正会員の入会金，年会費の額の変更が提案どおり承認され，通常総会に提案することを決定。

3. 佐野幸吉前会長を名誉会員に推荐の件
佐野前会長を名誉会員に推荐することを決定。

理 事 会

第11回理事会 開催日：2月18日。出席者：芝崎副会長，他 22 名。

1. 理事，監事ならびに評議員候補者推薦の件
理事15名，監事1名，評議員122名の各候補者を通常総会における選挙の際の候補者として推薦することになった。

2. 表彰規程中一部変更の件
表彰規程中服部賞，香村賞，渡辺三郎賞の表彰数毎年1を2以内に，ならびに西山記念賞毎年5以内を10以内に変更することを決定。

3. 昭和44年度重要技術研究補助金申請の件
「ジェットエンジン用耐熱合金試験」について3年間にわたる研究補助金を申請することを決定。

4. 連続製鋼研究委員会設置の件
連続製鋼研究のスケール・アップについての委員会構成，規程および委員会予算の報告がなされ承認された。

企 画 委 員 会

第11回委員会 開催日：2月17日。出席者：吉崎委員長，他 11 名。

1. 第54回通常総会，第77回講演大会会場変更
上記総会および大会会場が東工大から武蔵工大へ変更になった旨報告がなされ承認された。

2. 表彰規程中一部変更の件
規程中一部変更が承認された。

3. 昭和44年度重要技術研究補助金申請の件
「ジェットエンジン用耐熱合金試験」の申請が承認された。

4. 連続製鋼研究委員会設置の件
委員構成，規程，委員会予算が承認された。

研 究 委 員 会

第4回教育問題小委員会 開催日：2月18日。出席者：三本木委員長，他 4 名。

鉄鋼技術国際会議の次回実行委員会において教育問題

に関する報告を行なうために，サブ・テーマおよび論文の依頼先についての審議が行なわれた。サブ・テーマは次の3項目が決定された。

- (1) 大学における冶金教育の状況
 - (2) 大学における工学教育（金属工学）のカリキュラムの認定方法
 - (3) 学協会における教育活動の現状および方針
- なお論文の依頼先についてはイギリスおよびドイツはおのおの鉄鋼協会宛とし，フランスは金属学会宛にしアメリカは Prof. Derge および AIME の教育委員会宛にすることになった。

編 集 委 員 会

第12回和文会誌分科会 開催日：2月7日。出席者：荒木主査，他 12 名。

1. 論文審査報告
10件の報告があり，掲載可8件，修正依頼2件

2. 鉄と鋼第55年第6号(5月号)論文特集号掲載論文選定

10件の論文と1件の技術報告を選定し，討論会集録とともに載せることとなった。

3. 原稿審査用紙について
寄稿規程改定後まだ審査用紙を改定していなかったもので，事務局案に基づき審議の結果新しい審査用紙の形を決定した。

昭和44年度第1回和文会誌分科会 開催日：3月7日
出席者：荒木主査，他 7 名。

1. 論文審査報告
報告数12件，掲載可6件，修正依頼6件

2. 書評依頼について
「鉄冶金反応工学」の書評を松下幸雄東大教授に依頼することを決定。

3. 技術資料，特に製鉄，製鋼関係の資料の執筆依頼について検討することになった。

第12回欧文会誌分科会 開催日：2月17日。出席者：橋口主査，他 5 名。

1. 2件の論文について審査報告がなされた。

2. 16件の論文の投稿を勧誘することになった。

第11回出版分科会 開催日2月19日。出席者：佐藤主査，他 11 名。

1. 「鋼の熱処理」付録数表について
資料をもとに検討した。

2. 「鉄鋼製造法」について
目次編の検討をし(冒頭編，Ⅱ加工，Ⅲ処理，Ⅳ品質)第一読会を終えた

共同研究会 製鉄部会

第34回部会 開催日：2月27, 28日, 3月1日。出席者：小林幹事, 他 152 名。

第34回製鉄部会は川崎製鉄(株)水島製鉄所で開催された。今回の部会の議題は次の通り。

1) 高炉装入物の熱間性状について

熱間性状を評価するための試験方法およびその試験方法によって実施した基礎的研究について、また熱間性状と高炉炉況との関係についてくわしく報告がなされた。

2) 高炉操業度の向上における操業上、設備上の問題点と対策について

高炉操業度の向上を図るうえで、操業上、および設備上の問題とその対策ならびに効果について報告があり、また現設備での操業度の限界につき所感が述べられた。

また特別講演として、ペレット、性状と高炉操業との関係について(神鋼・神戸)と高炉の高酸素富化操業について(住金・和歌山)が行なわれた。なお第3日目は三崎製鉄(株)水島製鉄所の見学を行なった。

製鋼部会

第5回電気炉分科会 開催日：2月18, 19日。出席者：松本主査, 他 40 名。

今回は東京地区の東芝製鋼にて会議を行ない見学は東芝製鋼および三菱製鋼東京製鋼所にて行なわれた。

報告内容

1. 特別講演「東芝製鋼連続铸造設備の建設と操業経過」……東芝製鋼 大川君

東芝製鋼に設置されて現在順調に稼動している三菱オルソン式連続铸造設備の設置に到るまでの作業員の教育耐火物の検討その他、各方面からの検討経過が報告された。

2. 共通議題として能率向上対策(トロイダルバーナー、高電力操業など) 8件、電極原単位関係4件、自由議題1件、文献紹介1件が発表され活発に討議された。

標準化委員会

第17回特殊鋼分科会 開催日：2月6日。出席者：西主査, 他 16 名。

1. 特殊鋼JIS原案分科会報告

特殊鋼関係のJIS原案検討経過報告として「いおうおよびいおう複合快削鋼」「軸受鋼」「中空鋼」について報告が行なわれ3月に答申される旨説明があつた。

2. 特殊鋼規格分類体系について

標記の件については一応結論を得たが「ステンレス鋼」「線材」については問題があるので別途ステンレス協会および線材分科会に検討を依頼し調整する。

3. 特殊鋼分科会44年度方針

(i) JISの見直しは炭素工具鋼および合金工具鋼について行なう。

(ii) 規格分類体系のPRを行なう。

(iii) その他

第2回JISみがき棒鋼用鋼材原案分科会 開催日：2

月28日。出席者：今泉主査, 他 25 名。

みがき棒鋼規格原案立案に当たりその材料となるみがき棒鋼用鋼材のうち普通鋼範囲の鋼材について、規格案を作成することとなりみがき棒鋼メーカーから引張り強さと化学成分の保証関係について提案をうけていた。鋼材メーカーは各社から提出された約7000の実績データを解析し引張り強さ30~40 kg/mm², 34~44 (または35~45) kg/mm², 41~52 kg/mm²の3種と、それに対応する炭素量下限値を提案した。なお鋼材側から化学成分による4種類の鋼材を対案として提示した。疵除去、脱炭層その他についても検討を行なつたが次回には最終需要者の意見を加えて審議を行なう。

資料委員会

第54回委員会 開催日：3月4日。出席者：草川委員長, 他 13 名。

1. Trans. BISITS の来年度共同購入について

Trans. BISITS の価値、予算、利用状況手間の問題について意見が出された。その結果“必要なものだけ購入する”となつた。事務局は共同購入できなくなればone set 購入できるので選択購入の方法(1. 語学別, 2. 雑誌別, 3. 年度別購入)をとりいずれにするか検討中である。

2. ISIP (Iron and Steel Industry Profiles) A weekly SDI (Selective Dissemination of Information) の共同購入について

各社にとって利するところがなく、sea mail だと迅速性がないので共同購入は中止し、協会の一部購読するか否か事務局で検討することになつた。

3. 共研、基共研資料の今後のあり方

基共研資料については公開されているが、共研資料については委員会社以外には公開されていない。現在公開してほしいとの会員の要望があるので運営委員会に申請することに決定した。

4. “鉄と鋼”の年間総索引について

“鉄と鋼”12月号記載の総索引に分類をつけて利用者の便宜をはかつてはどうかという意見が出されたが、次回各種分類を具体的にとりあげ検討することになつた。

ジェットエンジン用耐熱合金研究委員会

第2回委員会 開催日：2月7日。出席者：雑賀幹事, 他 26 名。

昭和44年度通産省重要技術研究開発補助金申請のために下記のような検討を行なつた。

1. 各社における熱疲労試験の現状

委員会社のうち現在熱疲労関係の研究を行なっている会社から現行の試験機および試験内容などの発表が行なわれた。各社共ヒートチェック法または Coffin 法により行なわれているが、ジェットエンジン用耐熱合金のデータはほとんどないことがわかつた。

2. 東大鶴戸口教授から新熱疲労試験機として熱応力と機械的荷重を独立に加える油圧サーボを用いた鶴戸口式試験機(仮称)の紹介が行なわれた。

3. 補助金申請書案の検討

当試験計画は3年計画とするが通産省への申請は単年

計画なので44年度は鶴戸ロ式試験機を容量アップした試験機の製作と試験方法の検討を行なうこととした。

支 部 記 事

中国四国支部講演会

去る2月22日中国四国支部で講演会が開催され、本会関係では下記の講演が行なわれました。

講演題目

さく岩用ロッドの耐久性向上について

東洋工 ○内藤博夫・日下部正八郎

低炭素硫黄快削鋼の被削性におよぼす

硫化物性状の影響

八幡光 岡本一生・沢谷 精・○坂尾那男須

Nb 添加低炭素鋼について

日新呉 丸橋茂昭・○殿村一男

アルミキルド冷延板に発生する表面疵について

鋼管福山 松藤和雄・川上公成・○細田義郎

冷延鋼板の深絞り性に対する一考察

鋼管福山 ○松藤和雄・下村隆良

薄鋼板の多回押し張出し性について

東洋鋼下松 水木 功・田辺博一

○兼重俊一・益繁 正

溶融亜鉛層の電磁絞りについて

三菱重工業島研 ○板野重夫・中川義晴

〃 島船 奥本政則・高津敏明

三菱電中研 岸本 浩

リムド鋼のスカム巻込みについて

日新呉 藤田春彦・入谷喜雄

森谷尚玄・○栗谷常三郎

新 入 会 員 氏 名

(昭和44年1月～31日)

青柳 蓮	富士製鉄(株)室蘭
井口 善吉	〃
井上 秀三	〃
石塚 恵一	〃
今井 徹	〃
岩見 博志	〃
内田 恒次	〃
内田 俊春	〃
大佐久哲夫	〃
桑名 信雄	〃
桑原 富治	〃
佐藤 松夫	〃
高橋 孝史	〃
竹内 敏彦	〃
竹田 秀俊	〃
堤 雄治	〃
土肥 正治	〃
中野 邦男	〃
成田 隆治	〃
萩原 良衛	〃
樋口 紀生	〃
福島 駿	〃
藤井 嗣生	〃
藤原 貞夫	〃
藤原 敏耿	〃
堀川 秀郎	〃
堀田 一夫	〃
松本 聖毅	〃
三沢 順治	〃
吉田 徳三	〃
若林 慶作	〃
鈴木 信一	〃 中研
関根 知雄	〃
荒川宇一郎	八幡製鉄(株)八幡
江村 信元	〃
片山 裕之	〃
桜井大八郎	〃

津田 勉久	八幡製鉄(株)八幡
手塚 誠	〃
仲 俊也	〃
脇元 博文	〃
井藤三千寿	〃 東研
大野 剛正	〃
浜田 広樹	〃
丸山 忠克	〃
山口 重裕	〃
小田 恵文	(株)神戸製鋼所神戸
大久保清司	〃
清水 哲吾	〃
仲井 覚一	〃
中村 豊元	〃
大隈 剛	〃
荒川 要	〃 中研
岩田 至弘	〃
浅井 武二	住友金属工業(株)小倉
佐治 覚之	〃
滝重 勇	〃
長尾 正人	〃
藤原 利久	〃
西口 勝	〃 中研
平岩 修	〃
小野 邦彦	東洋工業(株)
志田原康博	〃
近藤 正隆	日新製鋼(株)呉
布村征司郎	〃
遠藤 一哉	川崎製鉄(株)千葉
元田 邦昭	〃 技研
沖原 洋二	久保田鉄工(株)船橋
本炭 家道	〃
金子 晨	三菱重工業(株)長崎
宮崎 隆之	〃
多田 健	日本鋼管(株)技研
上原 紀興	大同製鋼(株)中研
平賀 良	(株)日立製作所日立
中野 義一	三菱製鋼(株)長崎
大野 勝彦	(株)大野ロール製作所

広岡 純一	(株)大谷製鋼所
戸田 勲	航空宇宙技術研究所
辻 保	日本重化学工業(株)
加瀬 一郎	昭和電気製鋼(株)
稲田 爽一	日本冶金工業(株)
辛島 誠一	東北大学
松本 昇	〃
久保 敏彦	名古屋大学
田中 明弘	九州大学
村松 克己	静岡大学
児島 弘直	山梨大学
遠藤 信	防衛大学
学 生 会 員	
上川 清太	名古屋大学工学部
	金属科
久世富士夫	〃
花木 幸男	〃
牧 章	〃
最上二三男	北海道大学工学部
	冶金工学科
八木 知生	〃
松下 昭義	鉄鋼短期大学鉄鋼科
渡部 秀人	〃
岡田 康孝	京都大学工学部
	金属加工学科
黒沢 信一	早稲田大学理工学部
	資源科
鍛塚俊一郎	名古屋工業大学
	金属工学科
三沢 輝起	東北大学工学部
	金属工学科
長島 忠	工学院大学機械工学科
瀬戸佐智生	東海大学大学院
	工学研究科
外 国 会 員	
Nicholas Standish	(Australia)
-Ing. Albrecht	(West Germany)
Drevermann	
-Ing. Jesus M. Peña	(Mexico)